

2019年9月8日（日）

主 題：「希望に生きる人生」

—光が見えますか—

テキスト：ヨハネ11章17～27節

はじめに

- ・昨年9月、日本全国で100歳以上の高齢者が、6万9785人になりました。これは48年連続で過去最多を更新したことになります。10年前のなんと1、9倍となりました。高齢化社会となりましたね。
- ・100歳以上の女性は、6万1454人で全体の88・1%を占めています。中でも国内最高齢は、福岡市で暮らす女性の田中カ子（かね）さんで115歳。
- ・これは世界一の高齢者で、ギネスブックに登録されました。長寿、それは大きな喜びです。厚生省は「出生数の多い世代が100歳を迎えていることや、医療技術の進歩などが要因と考えられる」と分析しています。
- ・皆さん。人生100年時代と呼ばれるようになってきました。これは、ある意味で喜ばしいことです。しかし、忘れてはならないことは、人はどれだけ長寿社会になっても、死を迎えなければならないということです。死を避けることができる人は、誰一人いません。
- ・聖書の中にも「死」についての記録があります。それが今日のテキストです。イスラエルにベタニアという村があります。そこに、イエスが愛された3人兄弟（マリア、マルタ、ラザロ）が住んでいました。ところが、ラザロは病気で亡くなってしまいました。
- ・2人（マリア、マルタ）の姉妹は、悲しみに包まれ、失望の底に置かれました。そこにイエスが来られ、次のように言われました。
11:25 イエスは言われた。「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。」
- ・イエス・キリストはじつに不思議なことを言われました。「わたしを信じる者は死んでも生きる」と。すなわち、イエスは「死」の鍵を握っているということです。さらに言うならば、神であるということです。天と地の万物を作り、人間をお作りくださる神であるということです。
- ・死んでも生きるとは、なんという光（希望）ではありませんか。神を信じる人には、光（希望）があります。今日私たちは、「メモリアル・ワーシップ」を迎え、次の2点を考えてみましょう

大切なポイント

1. 悲しみの中にも希望がある

- ・神を信頼する人には、希望があります。人生には悲しみがあります。
人生を輪切りで考えるならば、大変つらいものです。世の中、理不尽なことが多々あります。悪を行う人が栄えています。真面目に生きる人が損をすることもあります。
- ・国と国、民族と民族は互いに対立し合い、人々は次第に疲れています。
いったい、世界の平和はいつ来るのだろうか、多くの人々が心配しています。
- ・しかし、ここで私たちは自分の人生を考えてみましょう。
あなたも私も、人生は一度しかありません。大変貴重な人生を有意義に、そして希望をもって過ごされませんか。イエスは言われました。
11:25 「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。」
- ・なんと希望（光）に満ちたおことばでありませんか。イエスはこのおことばを言われた後、死んだラザロに向かい宣言されました。
11:43 イエスはそう言われると、大声で叫ばれた。「ラザロよ。出てきなさい。」
さらに、聖書は次のように記録しています。
11:44 すると、死んでいた人が、手と足を長い布で巻かれたまま出て来た。彼の顔は布で包まれていた。イエスは彼らに言われた。「ほどいてやって、帰らせなさい。」
11:45 マリアのところに来ていて、イエスがなされたことを見たユダヤ人の多くが、イエスを信じた。
- ・イエスは、確かに死人を生き返らされました。それはイエスは神である権威が示された時でした。

2. イエスの「ことば」に希望がある

- ・なぜ、イエスはこのように言うことができたのでしょうか。
- ① **それは、旧約聖書の成就であるからです。**
聖書は、イエス（救い主）は来られますが、殺されると預言しました。
紀元前約8世紀、預言者イザヤ次のように預言しました。
【新改訳 2017】 イザヤ書
53:3 彼は蔑まれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で、病を知っていた。人が顔を背けるほど蔑まれ、私たちが彼を尊ばなかった。
53:4 まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みを担った。それなのに、私たちは思った。神に罰せられ、打たれ、苦しめられたのだと。
53:5 しかし、彼は私たちの背きのために刺され、私たちの咎のために砕かれたのだ。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、その打ち傷のゆえに、私たちは癒やされた。
53:6 私たちはみな、羊のようにさまよい、それぞれ自分勝手な道に向かって行った。しかし、【主】は私たちすべての者の咎を彼に負わせた。

- ・聖書は不思議な書物です。永遠のベストセラーと言われます。世界で最も古い書物の一つです。聖書は世界で、2、700以上の言語に翻訳されています。そして翻訳作業は、今日も世界の各地で続けられています。
なぜ、でしょうか？
- ・それは永遠に変わらない神の書であるからです。ですから、そこには神の権威が秘められているのです。
- ・聖書は「神は愛です」と語っています。愛である神は、私たちに慰めてくださいます。私たちに勇気と力を与えてくださいます。ですから、私たちクリスチャンは日々聖書を読むのです。

② 死に勝利されたお方であるからです。

- ・イエスご自身が、十字架にかけられ死にました。しかし、死に打ち勝ったお方です。イエスは死に勝利したお方ですから、権威があるお方です。その権威をもつお方が語られたことばには、希望があります。
- ・皆さん！ このイエスのことばを信じるには、信仰が入ります。なぜなら、目に見えないお方（イエス）を信じることだからです。ここで大切なことは、
→ イエスのことば（聖書）を信じること、それが信仰です。
- ・ここに、そのイエスのことばを信じて召された人がいます。
彼女の名前は、Ms. Ruth Powers です。パワーズ夫人は、米国から北浜チャーチを何度も訪ねてくださいましたから、まだ覚えている方もおられましょう。
なかでもあの Amish people の人々を連れてきてくださり、殺人犯の罪を赦すという前代未聞の証をしてくださいました。それは銃社会の米国で、一人の白人男性が突然 Amish の小学校を襲い、幼い死傷者たちを出した悲しい事件でした。犠牲となった被害者の親（Amish）が、その犯人の罪を赦したのです。それは、じつに感動的な証しでした。
- ・ところで、パワーズ夫人は日本と米国の架け橋となり、ペンシルバニア州ランキャスターに “American Home Life International” (Amish) という団体を立て上げました。AHLF は日本から米国へ語学留学生を迎える働きでした。ホームステイ先はすべてクリスチャンホームでした。パワーズ夫人の世話になった人々の人数は、推測ですが、きっと数万人に上ったことでしょう。その中で、神学校へ進み牧師となった方々を、私は知っています。
- ・その彼女は癌との戦いで闘病生活を送っていましたが、8月24日（土）午前2時35分、召されました。親族からの連絡によれば、彼女はその前日「延命治療の措置を自分の意思でストップした」そうです。
- ・彼女は、自分がどこに行くかをはっきりと知っていました。彼女が生涯愛した聖書のことば、それは次でした。ピリピ人への手紙1章21節
「私にとっては、生きることはキリスト、死ぬこともまた益です。」
「死ぬこともまた益です」言える人は幸いです。そうです。私たちには希望があります。なんと、希望に満ちたことばでしょうか。
- ・イエス・キリストはこう言われました。

11:26 また生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。このことを信じますか」

いかがでしょうか。私たちの人生は一度かぎりです。私たちも生涯を希望をもち、有意義にすごそうではありませんか。それはイエスのことばを、信じて歩むことです。

ま と め

主 題：「希望に生きる人生」

—光が見えますか—

・今日のメッセージのまとめとして、聖書のみことばで終わります。

11:25 「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。」

* God bless you!